

各位

金蘭千里中学校

本校入学者選抜試験問題に関するお願い

昨今、教育現場における著作権の在り方が議論されています。本校も、著作権法に基づいた著作物の適切な運用と管理に取り組んでいます。

本校の入試問題の利用につきましても、下記の点にご留意いただき、適切なご利用をお願いいたします。

記

1. 本入試問題の著作権は、本校に帰属します。複製の作成は、事前に申告いただいた場合のみ許諾します。

2. 本入試問題で引用している文学作品等の第三者の著作物は、関係団体を通じて、引用の許諾申請を行っています。

以上

令和5年度中学入試

[後期 入試]

国語科 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2. この問題冊子は、表紙を含めて 20 ページあります。

試験中に、印刷がはっきりしなかったり、ページの乱れや抜け落ちに気づいたりした場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

3. 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。

4. 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り離してはいけません。

[後期 入試] 受験番号 _____

金蘭千里中学校

【以下の余白にメモを取ってもかまいません。】

① 【聴解・リスニング】

放送で流れる男女の会話と設問を聞いて、指示された形式で答えなさい。

問 1

- ア 五・七・五の17拍からなり、法隆寺の境内で柿を食べながら、秋の訪れを感じている。
イ 俳句の形式で、季語にとらわれることなく、自由に秋の訪れの喜びをよみ上げている。
ウ 柿を食べることと鐘が鳴ったことが因果関係としてつながっていることが絶妙に示されている。
エ 奈良の法隆寺のそばで、秋の訪れを、聴覚と味覚を通して実感していることが、伝わってくる。

問 2

ア 福岡	1万2千トン	イ 奈良	2万7千トン	ウ 岐阜	1万2千トン
奈良	2万7千トン	福岡	1万5千トン	奈良	1万5千トン
和歌山	1万5千トン	和歌山	4万トン	福岡	4万トン
岐阜	4万トン	岐阜	1万2千トン	和歌山	2万7千トン
エ 和歌山	2万7千トン	オ 岐阜	1万5千トン	カ 和歌山	1万5千トン
奈良	4万トン	和歌山	4万トン	奈良	1万2千トン
岐阜	1万2千トン	奈良	2万7千トン	福岡	2万7千トン
福岡	1万5千トン	福岡	1万2千トン	岐阜	4万トン

問 3

() 【算用数字で答える】

問 4

() 【算用数字で答える】

②次の文章を読み、後の間に答へなさい。問題に字数制限のあるものは、すべて句読点や記号も一字とする。

昨今、「正しさは人それぞれ」とか「①みんなちがつてみんないい」といった言葉や、「現代社会では価値観が多様化している」「価値観が違う人とは結局のところわかりあえない」といった言葉が流布しています。このような、「人や文化によつて価値観が異なり、それぞれの価値観には優劣がつけられない」という考え方をX相対主義といいます。「正しさは人それぞれ」ならまだしも、「絶対正しいことなんてない」とか、「何が正しいかなんて誰だれにも決められない」といったことさえ主張する人もけつこういます。

こうしたことを主張する人たちは、おそらく多様な他者や他文化を尊重しようと思つてゐるのでしよう。そういう善意はよいものではありますか、はたして「正しさは人それぞれ」や「みんなちがつてみんないい」という主張は、本当に多様な他者を尊重することにつながるのでしょうか。そもそも、「正しさ」を各人が勝手に決めてよいものなのか。それに、人間は本当にそれほど違つてゐるのかも疑問です。

たしかに、価値観の異なる人と接触することがなかつたり、異なつていても両立できるような価値観の場合には、「正しさは人それぞれ」と言つても大きな問題は生じません。たとえば、訪ねることも難しい国の人たちがどのような価値観によつて生活していても、自分には関係がありません。またたとえば、野球が好きな人とサッカーが好きな人は、スポーツのネタでは話が合わないかもしれません、好きなスポーツの話さえしなければ仲良くできるでしよう。サッカーが好きなのは間違つていて、すべての人は野球が好きでなければならない、なんていうことはありません。

こうした場面では、「人それぞれ」「みんなちがつてみんないい」でよいでしよう。しかし、世の中には、両立しない意見の中から、どうにかして一つに決めなければならない場合があります。たとえば、「日本の経済発展のためには原子力発電所が必要だ」という意見と、「事故が起つた場合の被害が大きすぎるので、原子力発電所は廃止すべきだ」という意見とは、両立しません。どちらの意見にももつともな点があるかもしれません、日本全体の方針を決めるときには、どちらか一つを選ばなければなりません。原子力発電所を維持するのであれば、廃止した場合のメリットは捨てなければなりません。逆もまたしかり。②「みんなちがつてみんないい」というわけにはいかないのです。

そんなときには、どうすればよいでしようか。「価値観が違う人とはわかりあえない」であれば、どうすればよいのでしようか。

そうした場合、現実の世界では権力を持つ人の考えが通つてしまします。本来、政治とは、【③】なのですが、最近は、日本でもアメリカでもその他の国々でも、権力者が力任せに自分の考えを実行に移すことが増えています。批判に対しきちんと正面から答えず、單に自分の考えを何度も繰り返したり、論点をずらしてAはぐらかしたり、権力を振りかざして脅したりします。

そうした態度を批判するつもりで「正しさは人それぞれだ」とか「みんなちがつてみんなない」などと主張したら、権力者は大喜びでしょう。なぜなら、もしもさまざまな意見が「みんなちがつてみんなない」のであれば、つまりさまざまな意見の正しさに差がないとするなら、選択は任せに行うしかないからです。「絶対正しいことなんてない」とか「何が正しいかなんて誰にも決められない」というのであればなおさらです。決定は正しさにもとづいてではなく、人それぞれの主観的な信念にもとづいて行うしかない。それに納得できない人は話し合つても無駄だから権力で強制するしかない。④こういうことになってしまいます。

つまり、「正しさは人それぞれ」や「みんなちがつてみんなない」といった主張は、多様性を尊重するどころか、異なる見解を、権力者の主觀によつて任せに切り捨てるることを正当化することにつながつてしまふのです。これでは結局、「力こそが正義」という、困った世の中になつてしまふます。それは、権力など持たない大多数の人々（おそらく、この本を読んでくれているみなさんの大部分）の意見が無視される社会です。

では、どうしたらよいのでしょうか。

よくある答えは、「科学的に判断するべきだ」ということです。科学は、「客観的に正しい答え」を教えてくれると多くの人は考えていきます。このように、さまざま問題について「客観的で正しい答えがある」という考え方を、Y普遍主義といいます。探偵マンガの主人公風に言えば、「真実は一つ！」という考え方だといつてもよいかもしれません。先ほどの相対主義と反対の意味の言葉です。「価値観が多様化している」と主張する人たちでも、科学については普遍主義的な考えを持つている人が多いでしょう。「科学は人それぞれ」などという言葉はほとんど聞くことがありません。

そして実際、日本を含めてほとんどの国の政府は、aセイサクを決めるにあたつて科学者の意見を聞くための機関や制度を持つています。日本であれば、各省庁の審議会（専門家の委員会）や日本学術会議などです。「日本の経済発展のために原子力発電所は必要なのか」「どれぐらいの確率で事故が起るのか、事故が起つたらどれぐらいの被害が出るのか」といった問題について、科学者たちは「客観的で正しい答え」を教えてくれそうに思えます。

ところが、実は科学はB一枚岩ではないのです。科学者の中にも、さまざまな立場や説を取つてゐる人がいます。そうした多数の科学者が論争する中で、「より正しそうな答え」を決めていくのが科学なのです。それゆえ、「科学者であればほぼ全員が賛成している答え」ができるには時間がかかります。みなさんが中学や高校で習うニュートン物理学は、いまから三〇〇年以上も昔の一七世紀末にbティシヨウされたものです。アインシュタインの相対性理論や量子力学は「現代物理学」と言われますが、ティショウされたのは一〇〇年前（二〇世紀初頭）です。現在の物理学では、相対性理論と量子力学を統一する理論が探求されていますが、それについては合意がなされていま

せん。合意がなされていないからこそ、研究が進められているのです。

最先端の研究をしている科学者は、それぞれ自分が正しいと考える仮説を正当化するために、実験をしたり計算をしたりしています。つまり、科学者に「客観的で正しい答え」を聞いても、何十年も前に合意が形成されて研究が終了したことについては教えてくれますが、まさしく今現在問題になっていることについては、「自分が正しいと考える答え」しか教えてくれないのでです。^⑤ある意味では、「科学は人それぞれ」なのです。

そこで、たくさんの科学者の中から、自分の意見と一致する立場をとっている科学者だけを集めることができます。東日本大震災で福島第一原発が爆発事故を起こす前までは、日本政府は「原子力（注1）推進派」の学者の意見ばかりを聞いていました（最近また、そういう時代に逆戻りしつつあるような気がしますが）。アメリカでも、トランプ大統領（在任二〇一七～二〇二一）は地球温暖化に（注2）懷疑的な学者ばかりを集めて「地球温暖化はウソだ」と主張し、経済活動を優先するために二酸化炭素の排出の規制を（注3）緩和しました。

権力を持つ人たちは、もつと直接的に科学者をコントロールすることもできます。現代社会において科学研究の主要な財源は国家予算です。そこで、政府の立場と一致する主張をしている科学者には研究予算を支給し、そうでない科学者には支給しないようにすれば、政府の立場を（注4）キヨウするような研究ばかりが行われることになりかねません。

このように考えてみると、科学者であっても、現時点で問題になっているような事柄について、「客観的で正しい答え」を教えてくれるものではなさそうです。ではどうしたらよいのでしょうか。自分の頭で考える？　どうやつて？

この本では、「正しさ」とは何か、それはどのようにして作られていくものなのかを考えます。そうした考察を踏まえて、多様な他者と理解し合うためにはどうすればよいのかについて考えます。ここであらかじめ結論だけ述べておけば、私は、「正しさは人それぞれ」でも「真実は一つ」でもなく、人間の生物学的（注4）特性を前提としながら、人間と世界の関係や人間同士の間の関係の中で、いわば共同作業によって「正しさ」というものが作られていくのだと考えています。それゆえ、⑥多様な他者と理解し合うということは、かれらとともに「正しさ」を作っていくことです。

これは、「正しさは人それぞれ」とか「みんなちがつてみんないい」といったお決まりの簡便な一言を吐けば済んでしまうようなdアンイな道ではありません。これらの言葉は、言ってみれば相手と関わらないで済ますための（注5）最後通牒です。みなさんが意見を異にする人と話し合った結果、「結局、わかりあえないな」と思ったときに、このように言うでしょう。「まあ、人それぞれだからね」。対話はここで終了です。

ともに「正しさ」を作っていくということは、そこで終了せずに踏みとどまり、とことん相手と付き合うという面倒な作業です。相手の言い分を受け入れて自分の考えを変えなければならないこともあるでしょう。それでプライドが傷つくかもしません。しかし、傷つくことを嫌がつていては、新たな「正しさ」を知つて成長していくことはできません。

最近、「正しさは人それぞれ」と並んで、「どんなことでも感じ方しだい」とか「心を傷つけてはいけない」といった感情尊重の e フ ヲ チ ョ ヴ も広まっています。しかし、学び成長するとは、今の自分を否定して、今の自分でないものになるということです。これはたいへんに苦しい、ときに心の傷つく作業です。あえていえば、成長するためには傷ついてナンボです。若いみなさんは、傷つくことを恐れずに成長の道を進んでほしいと思います（などと言うのは説教くさくて気が引けますが）。

（山口裕之『「みんな違つてみんなない』のか？ 相対主義と普遍主義の問題』より 一部改めたところがある）

（注1）推進……おしすすめる。

（注2）懷疑的……疑いを持つて接するさま。

（注3）緩和……ゆるめる。

（注4）特性……特有の性質。

（注5）最後通牒……話し合っている相手につきつける最終通告。

（一）波線部 a ~ e のカタカナを漢字に直しなさい。

a セイサク b テイシヨウ c ホキヨウ d アンイ e フウチヨウ

（二）二重傍線部 A・Bについて、言葉の意味としても適切なものを次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|-----------|-----------|----------|-------------|---------|
| A 「はぐらかし」 | ア 嘘を並べ | イ 相手をだまし | ウ 納得させ | エ ごまかし |
| B 「一枚岩」 | ア 変化しないもの | イ 動かないもの | ウ まとまっているもの | エ 重要なもの |

(三) 傍線部 X 「相対主義」・Y 「普遍主義」とあるが、次の例ア～オはどちらに当てはまるか。それぞれXかYのいずれかで答えなさい。

ア 地球は太陽の周囲を公転する惑星であり、地球の周囲を太陽がまわっているわけではない。

イ 学校の先生は勉強が大切だと言うが、すべての人にとって勉強が一番大切なものであるとは限らない。

ウ カレーライスは日本の小学校で人気の給食メニューだが、給食のカレーライスが苦手だと思う人もいる。

エ 十個の赤い玉と五個の白い玉が入った箱から一個の玉を取り出す時は、赤い玉が出る確率の方が高い。

オ 世界にはさまざまな人種や文化があるが、どの文化が優れているかを決めるることはできない。

(四) 傍線部①「みんなちがつてみんないい」は、「私が両手を広げても」から始まる詩の一節である。この詩の作者と作品名を、次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---------|-----------|----------|-------|----------|
| (1) 作者 | ア 谷川俊太郎 | イ 金子みすず | ウ 俵万智 | エ 宮沢賢治 |
| (2) 作品名 | ア 私と小鳥と鈴と | イ 雨ニモマケズ | ウ 生きる | エ サラダ記念日 |

(五) 傍線部②「みんなちがつてみんないい」というわけにはいかない」とあるが、その理由としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「正しさ」を各人が勝手に決めてよいものなのか、人間は本当にそれほど違っているのかについては疑問が残り、「正しさは人それぞれ」や「みんなちがつてみんないい」という主張が多様な他者を尊重することにつながるわけではないから。

イ 価値観の異なる人と接触する場合には、意見が両立する時であってもどちらか一つを選ばなければならず、人間が社会で生きる以上、意見が異なった場合はどんな時でも最終的な決定が必要になるから。

ウ 訪ねることも難しい国の人たちがどのような価値観によって生活しているか、野球とサッカーどちらのスポーツが魅力的であるかといった問題を、人間はそのままにしておくことができないから。

エ 昨今では多様な他者や他文化を尊重することが求められる一方で、原子力発電所を廃止するのかどうかといった問題についてはさまざまな意見があり、最終的な結論を出すことは不可能だから。

オ 全体の方針を決めるときには、「正しさは人それぞれだ」と言って済ませるわけにはいかず、世の中には両立しない意見の中から、どうにかして一つの意見を決めなければならないこともあるから。

(六)【③】に入れるのにもつとも適切な言葉を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ある画期的な意見を持った権力者が権力を使つて集団を動かすためのしくみ

イ 自分の意見と一致する立場をとつてゐる人を効率よくまとめていくための機関

ウ 意見や利害が対立したときに妥協点や合意点を見つけだすためのはたらき

エ 全体の決定に納得できない少数の人たちを強制的に従わせることができる権力

オ 強い意志を持たない大多数の人々の考えに少しでも耳を傾けるための発明かたむ

(七) 傍線部④「こういうこと」の内容を説明したものとしてもつとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 権力を持つ人が力任せに反対意見を切り捨てた結果、批判に対しきちんと正面から答えられなくなり、自分の考えが通るまで何度も同じ主張を繰り返すしかなくなってしまうこと。

イ 「みんなちがつてみんない」といつた主張が、さまざまの人々の意見をうやむやにしてしまうことで、結果的に選択は力任せに行うしかなくなってしまうこと。

ウ 「正しさは人それぞれだ」という一見すると多様性を尊重するかのような主張は、むしろ権力者が人々の多様な意見を力任せに切り捨て、自らの考えを押し通すことを正当化してしまうこと。

エ 現在の政治権力者を中心に「力こそが正義」という思想がはびこり、本来は強大な権力を持つてゐるはずの人物の意見が無視されてしまう、困った世の中になってしまふこと。

オ 人々が、決定はそれぞれの信念にもとづいて行うしかないと考えるようになり、自分の考えに納得できない人とは話し合つても無駄だからと話つて話し合うのをやめ、あきらめてしまうこと。

(八) 傍線部⑤ 「ある意味では、「科学は人それぞれ」とあるが、なぜそのように言えるのか。その理由としてもつとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 多数の科学者が論争する中で「より正しそうな答え」を決めていくのが科学であり、そもそも合意が形成されていない問題については、それぞれの科学者たちがさまざまな立場や説を取っているから。

イ 一〇〇年前に議論されたアインシュタインの相対性理論や量子力学が「現代物理学」と言われているように、「科学者であればほぼ全員が賛成している答え」ができあがるには時間がかかるから。

ウ 科学は「客観的に正しい答え」を教えてくれると多くの人が考えており、「価値観は人それぞれだ」と主張する人たちも、科学について普普通主義的な考え方を持つていて場合があるから。

エ 日本を含めてほとんどの国の政府は、国の方針を決めるにあたって科学者の意見を聞くための機関や制度を持つており、それぞれの国が科学について「客観的で正しい答え」を導き出そうと努力しているから。

オ 最先端の研究をしている科学者は、それぞれ自分が正しいと考える仮説を正当化するために研究を進めており、結局は「自分が正しいと考える仮説」こそが「客観的に正しい答え」であると言えるから。

(九) 傍線部⑥「多様な他者と理解し合うということは、かれらとともに「正しさ」を作っていくということです」とあるが、どういうことか。その説明としてもつとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間はそれぞれの価値観を持つていて、時には苦しくても今の自分を否定して、成長した新しい自分になる必要があり、「正しさ」はそうした新しい自分の中にしか生まれてこないものであるということ。

イ 多様な意見を持つ他者と理解し合うためには、それぞれの意見を対立させることが不可欠であり、心の傷つくような作業を通さなければ、本当の「正しさ」は生まれてこないということ。

ウ ともに「正しさ」を作っていくためには、「正しさは人それぞれ」というお決まりの簡単な言葉で済ますことは不可能で、両者が和解するまでは、いつまでも面倒な相手との関係を続けなければならないということ。

エ 自分とは意見の異なる人と話し合った結果、「わかりあえないな」と思つたときに、場合に応じて相手の言い分を受け入れて自分の考えを変えることによって、「正しさ」は生まれてくるものだということ。

オ 多様性を尊重するためには、簡単な一言で対話を終了させるのではなく、たいへんに苦しい、ときに心の傷つく作業を通して自分が学び成長していく必要があるということ。

③次の文章を読み、後の問い合わせに答えなさい。問題に字数制限のあるものは、すべて句読点や記号も一字とする。

いつの時代の壁紙なんだ？

ニコチン吸い過ぎ金色に変色

いまの時代の壁紙なんだ

カーテン越し 金色の光が回転

ホワイトとかブラックとかブラウンとか

あたしの知ってるカラーはそんなんじやない

肌の色じやない 人の色じやない

それは の金色

ひび割れたガラス窓から

いつも見ている夜の金色

闇の中をキラキラやつてくる救急車のライト

団地の少女たちを迎える車のヘッドライト

放つ光はビューティフル・ゴールド

闇夜にきらめくラブリー・ゴールド

「ミア、今日も授業中にこういうの書いてたよ」

そう言つて放課後に通路で①そのプリントを渡してきたのはレイラだった。どうして彼女がそんなものを自分に持ってきたのかわからなかつたが、渡されたとき、ウイルはちよつと赤面した。

「ミアに（注1）ラップのリリック書いてほしいんでしょ？」

「あ、……ああ、ありがとう」

気がアドゥテンしていたウイルはとりあえずレイラに礼を言つた。

ウイルはその場を逃れるように階段を駆け上り、いつものように音楽部の部室に行つて、窓辺の宅録機材が置かれた机の椅子に座り、急いで広げた。

それは歴史の授業で先生が配ったプリントだった。真っ白な裏面にブルーのボールペンでそのリリックは書かれていた。

② ウィルはそこに書かれていた言葉に釘付けになつた。今日、下を向いて一心に本を読んでいたミアの丸い頭部に日の光があり、きらきら金色に輝いていたのを見て、母が自宅の前庭にたくさん植えているマリーゴールドの花を連想してぼんやりしていたことを思い出したからだ。

ミアも「金色」について書いていたのはすごい（注2）シンクロだと思つた。

だが、同じ色についてでも、ウィルは花を思い出していたのに、ミアのゴールドは救急車のライトの色だった。同じ色から連想するものが、ミアと自分でこれほど違つてているのだ。

「あの界限には近づくな」と周囲の人たちが言う公営団地にミアが住んでいることや、彼女の家庭のことをウィルは少しだけ漏れ聞いていた。母親がママ友たちから噂を聞いてきて、（注3）チャーリーを「恵まれない家庭の子」と呼んでいた。

「依存症の問題を抱えたシングルマザーの家庭で、貧しいからいつもサイズが小さくなつた制服を着ているよね。それをルイがからかつていじめているらしいの。親が精神的に不安定なせいか、チャーリーはいつもおどおどして気の弱い子どもだから、それを③いいことにルイがひどいことばかりしている。いつたいどうしたらしいのかしら」

そう言って、母親が父親に相談しているのを聞いたことがある。

ウィルがミアをリアルだと思うのは、たぶんそうしたことが関係しているのだった。ヤバいラップのリリックは、ミアが暮らしているような場所から出てくる。だから、彼女と一緒に音楽をやれば、クールなリリックが出てくるだろうと期待していたのだ。

だが、実際に彼女が書いた言葉を読むと、ウィルの胸は潰れそうになつた。

陽だまりに揺れるマリーゴールドなんか想像してしまうXおめでたい自分と、暴力やドラッグや依存症者のために団地に走つてくる救急車のライトを連想するミア。

同じゴールドでもあまりにかけ離れ過ぎている。ウィルは恥ずかしい気持ちでいっぱいになつた。リリックを読み返すと、暗い部屋で膝を抱えて救急車のサイレンの音を聞いているミアの姿が浮かんだ。④なんとも言えない気持ちになつてウィルは俯いた。

「Y.O.! （注4）ブロー！ 新しいラップできたぜ。めっちゃかっこいいリリック思いついた。最高にワルくて（注5）ドープ」

黙つて宅録機材の前に座つているウィルの肩を、キムが叩いた。
「聴いてみる？」

キムはiPhoneのイヤフォンをウィルに渡そうとしたが、ウィルは右手の掌を立ててそれをbセイシした。
「いや、いまはやめとく」

（アイフォーン）

恵まれた世界で作られた「最高にワルくてダーク」なラップなど、⑤ちよつといまは聴く気になれなかつた。

翌日、ミアは学校で（注6）フミコの本を読まなかつた。おとぎ話の続きを読む気になれなかつたからだ。最後の授業が終わつてレイラと一緒に教室から出ようとするとき、後ろから唐突に呼び止められた。

「ミア、ちよつと待つて」

振り返るとウイルが追いかけてきていた。

「これ、よかつたら読んでみて」

ウイルはクリップで留められた紙の束をミアに差し出した。

「何？」

「ケイト・テンペストって知つてる？」

「……」

「うて言うが、いまは（注7）ノンバイナリーをカムアウトしてケイ・テンペストって改名してるんだけど、戯曲や小説も書いている有名な人。その人のラップのリリックをプリントアウトしてきたんだ。^{ヨーチューブ}YouTubeで彼女の曲、たくさん聴けるよ。すぐ、とにかくいいんだ。リンクをメールするよ」

ウイルは意を決したように、ペペペと一息に喋つた。

レイラが思わずぶりににやにやしてウイルとミアの顔を交互に見ていた。窓際の席から立ち上がり、机に向かって歩いてくるラグノールとキムも意味ありげに笑つている。

「私、スマホ持つてないから」

ミアが答えるとレイラが言つた。

「持つてるじゃない」

レイラがミアにくれた古いスマホのことを語りしているのだと気づき、ミアは言い直した。

「
I
——
II
」

「メールアドレスはあるよね」

「
I
——
II
」

家にパソコンがない、とはミアには言えなかつた。何年か前に、小学校の保護者会が地域のチャリティーと協力して、家にパソコンがない子どもたちに無

料でタブレットを貸与してくれたことがあった。でも、母親がビールをこぼしてしまって動かなくなり、c. シュウリしてもらつたり、新しいものと取り換えてもらつたりするには保護者会から書類を貰つて手続きする必要があると言われて母親が面倒くさがり、そのままになつていた。

「私にメールとか送つても、意味ないと思う」

現実問題としてメールを見る手段がないからミアはそう言つた。

でも、事情を知らない人が聞いたらひどく失礼な拒絶の言葉に聞こえるだろうなとも思つた。だから、とりあえず、ウィルが差し出した紙の束だけは受け取ることにした。

「これは、貰つとく。ありがとう」

ミアはウイルから貰つた紙の束を握りしめ、レイラと並んで教室を出た。レイラが不思議そうにミアに聞いた。

「 III

」

「なんか、面倒そだなつて。連絡がついちやうと、いろんなところにいろんな人が追いかけてくるみたいで、気が落ち着かない気がして」

「 IV

」

「情報とかつて、そんなにいろいろ知つてないといけないのかな」

ミアはぼそりと呟いた。

「うちは貧乏だからスマホもパソコンも情報も買えないんだよ」と正直に言つたら、レイラやウイルやラグノールやキムはどんな顔をするだろう。少なくとも、もうにやにやはしていられないだろうし、気まずくなつて会話はそこで止まつてしまつだろう。雰囲気は重苦しくなり、みんながミアに気を遣い始める。本当のことを言つたら、もう彼らの一人として喋れなくなるのだ。ミアはきゅうと口をつぐんだ。

(中略)

「ケイ・テンペストの動画、見る？」

ミアが校庭の榆の木の下でベンチに座つて本を読んでいると、レイラが話しかけてきた。

「有名になつてからノンバイナリーをカムアウトして名前を変えるなんて勇氣ある。ケイトだつた頃から、私たちは人と違つていてもいいんだつて一貫して歌つてきたから、自分もそうしたんだろうね。なんかこの人、すごく格好いいと思う」

レイラはそう言つて、ミアにイヤフォンを渡そうとしていた。

ミアはそのころんとした白いイヤフォンを耳に入れてみた。レイラがYouTubeの動画を再生し、iPhoneをミアに渡す。ゆるいウェーブのかかつた量の多い長い金髪と空色の瞳が印象的な女性が映つていた。ルックスを見る限りでは、そんなに「違う人」という気はしない。

フミコ風に言えば、「雑木林の木々」の中に埋もれてしまいそうな、どこにでもいる感じの人だ。

「これが、ケイ・テンペストって人？」

ミアが尋ねると、レイラが答えた。

「これはケイト時代の動画。いまは少年っぽいショートカットになつてて、すごくかわいい」

ケイト時代のケイ・テンペストは、キーボードの演奏に合わせて詩を朗読していた。詩の朗読にしかミアには見えなかつた。ミアがイメージするラップバーミたいに体を揺すつてダンスしているわけでもなければ、前かがみでdカンシュウに（注8）ボーストしているような、挑戦的な感じもない。静かで、淡淡としたパフォーマンスだつた。

私の国がバラバラになつていく、何もかもすべてが失敗だらけのY茶番になつていく、お金の心配や仕事や何もかもに潰されそうになりながら、いまにも崩れ落ちてしまいそうだけど友だちみんなに笑いかける、部屋のベッドに寝転がつて眠れない人、泣きながら駅に立つている人……。リリックの内容が断片的に耳から飛び込んできて、ミアがよく知つている風景が次々と頭の中に立ち上がつた。

「ビューティフル……」

なぜかミアの瞳に温かい水がたまつてきた。

「でしょ？ この人は私もちよつとすごいと思う。こんなラップ、聞いたことがない。テレビとかに出てないから、私もウイルがリリックを持つてくるまで知らなかつたんだけど」

「ありがと」

曲が終わると、ミアはイヤフォンを外し、レイラに返そうとした。

「もう一曲、聞いてみる？」

レイラはそう言つたが、ミアは首を振つた。iPhone のスクリーンが、そろそろ次の授業が始まる時刻を示していたからだ。（注9）ソーシャル・ワーカーやNHS（国民保健サービス）が家に介入してきてるときに、遅刻をして悪い記録を残すこととは避けたかった。

「なんかね、私は前からラップとか好きじやなくて、何クールぶつてんの、この人たち、としか思えなかつたんだけど。この人はいいなつて思った」

校舎に向かつて歩き始めたミアを追いかけながらレイラが言つた。

「私さ、ダンスを踊つたり、音楽を聴いたりしていると、ああ、これだ、つて感じる瞬間が訪れるときがある。何が『これ』なのか、『これ』が何を意味するのかわからないけど。でも、ああこれ、ようやくこれに会えたっていう瞬間。奇妙だよね。テンペストのラップにもそれがある」

「『これ』って何なんだろう」

「……」

「……それはたぶん、『』とは違う世界を指しているんじゃないかな」

「え？」

「たぶん、『これだ』って感じる瞬間だけ、私たちは、その違う世界に行つてるんじゃないかな」

「……違う世界って、それ、どこのこと？」

「わからない。わからないけど、それは『』ではない世界で、自分が本来いるべき場所っていうか、行つたこともないのになぜか知つていてる場所……」

ミアはそう答えて口くちもつた。

たぶん、その知らないのに知つている場所に一瞬いっしゅんだけ連れていかれるから、まるで失われた場所を思い出すように「ああ、これだ」と直感するんじやないだろうか。

さつきの動画を見て、ミアは確かにそういう気分になつた。あのラッパーの言葉は、ミアをその場所に連れていったのだ。だから目に温かい水があふれてきたのだろう。

言葉には、そういう力がある。

⑥私も私の現実を、誰にも言えない本当のことを、テンペストのラップみたいに誰かの物語として語つてみたい。ミアは強くそう思つた。

(ブレイディみかこ『両手にトカレフ』より 一部改めたところがある)

(注1) ラップのリリック……「ラップ」はリズムに乗せて日常生活の事物や社会的な主張などを語る音楽のジャンル。「リリック」はその歌詞のこと。

(注2) シンクロ……「シンクロニシティ」の略。「シンクロニシティ」は偶然の一致のこと。

(注3) チャーリー……ミアの弟。

(注4) ブロー……「よう」「やあ」といつた呼びかけの言葉。

(注5) ドープ……かつこいい、すごいという意味の俗語。

(注6) フミコの本……大正時代の革命家、金子文子の自伝。過酷な幼少期を過ごした彼女の伝記に、ミアは自身の姿を重ね合わせて読みふけつていたが、この時フミコの人生が好転しかかっていた。

(注7) ノンバイナリーをカムアウトして……自分の性別が従来の「男性」「女性」のどちらにも当てはまらないということを公表したということ。

(注8) ボースト……ほー誇らしげに話す。

(注9) ソーシャル・ワーカー……生活に問題を抱える人々に対して、医療や介護、福祉における相談や援助を行う人。

(一) 波線部 a～d のカタカナを漢字に直しなさい。

- a ドウテン b セイシ c シュウリ d カンシュウ

(二) 傍線部①「そのプリント」とあるが、そこに書かれた詩に使われている表現技法を次のア～オの中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 直喻法 イ 擬人法 ウ 体言止め エ 倒置法 オ 反復法

(三) □にふさわしい四字熟語を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 電光石火 イ 一触即発 ウ 急転直下 エ 緊急事態 オ 波瀾万丈

(四) 傍線部②「ウィルはそこに書かれていた言葉に釘付けになった」とあるが、その理由を説明したものとしてもつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 歴史の授業中なのに、ミアがこつそりこんな詩を書いていた大胆さに驚いたから。

イ ウィルが見ていた太陽光の金色と同じ金色が、ミアの詩の題材になっていたから。

ウ 以前からミアに好意を抱いていたことを、レイラに見透かされたと思つたから。

エ ミアには独特な言葉のセンスがあると思っていたが、この詩でそれを確信したから。

(五) 傍線部③「いいことに」とあるが、「いい」という語にはさまざまな意味がある。次の(1)(2)の問い合わせに答えなさい。

(1) 次のA～Cの文で使われている「いい」の意味を後のア～ウの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- A 私はもうヨーヒーはいいです。 B いい機会だから話しておこう。 C 彼は腕のいい大工だ。
〔ア 優秀 イ 十分 ウ 好都合〕

(2) 本文の「いい」と同じ意味で使われているものを、(1)のA～Cの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(六) 傍線部④「なんとも言えない気持ちになつてウイルは俯いた」とあるが、この時のウイルの気持ちを説明したものとしてもつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ミアの置かれている過酷な環境^{かんきょう}に思^ういが至らず、恵まれない家庭で育つたミアならクールなリリックを書いてくれると期待していた自分の^{あま}甘さを痛感した。

イ ミアが住んでる公営団地は周囲の大人たちが「あの界隈には近づくな」と言う言葉通りで、これ以上ミアと親しくなれば大人たちに反対された。と思つた。

ウ ミアにラップのリリックを書いてもらえば、暴力やドラッグに囲まれているミアの生活があからさまになるといふ」とに気づき、申し訳ないと思つた。

エ ミアにクールなラップのリリックを書いてもらいたいと思つていたが、ミアの置かれている環境は想像以上に過酷なので、あきらめざるを得ないと思つた。

(七) 傍線部⑤「ちよつといまは聴く気になれなかつた」とウイルが感じたのは、キムのラップにはどのような世界が描^えけていないからなのか。それを表す語を文中から見つけ、解答欄^{らん}に合うように三字で抜^ぬき出しなさい。

(八) 「I」～「IV」に入る会話として適切なものを次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「なんでスマホ使^だわないので？」
ウ 「つて言うか、スマホ使つてないから」

イ 「だけど、そんな」として^いると、情報がわからぬじやん」
エ 「作つたことあるけど、全然使つてないし」

(九) 二重傍線部 X 「おめでたい」、Y 「茶番」の語の説明としてもつとも適切なものを次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- X 「おめでたい」 ア 世間知らず イ 能天氣 ウ 無頓着 エ お調子者 オ 不器用
Y 「茶番」 ア 馬鹿げた振る舞い イ 皮肉な結果 ウ 不確かな未来 エ やりきれない孤独 オ 自分だけの経験

(十) 傍線部⑥「私も私の現実を、誰にも言えない本当のことを、テンペストのラップみたいに誰かの物語として語つてみたい」について、次の(1)(2)の問い合わせなさい。

- (1) 「誰にも言えない」ミアの現実を具体的に表した二十七字の部分を文中から探し、その最初と最後の五字を答えなさい。
(2) ミアがこのような気持ちになつたのは、テンペストのラップからどのようなメッセージを受けたからと考えられるか。それを表した十六字の言葉を文中から探して抜き出しなさい。

令和五
中入
国語
「後期」

解答用紙

金蘭千里中学校

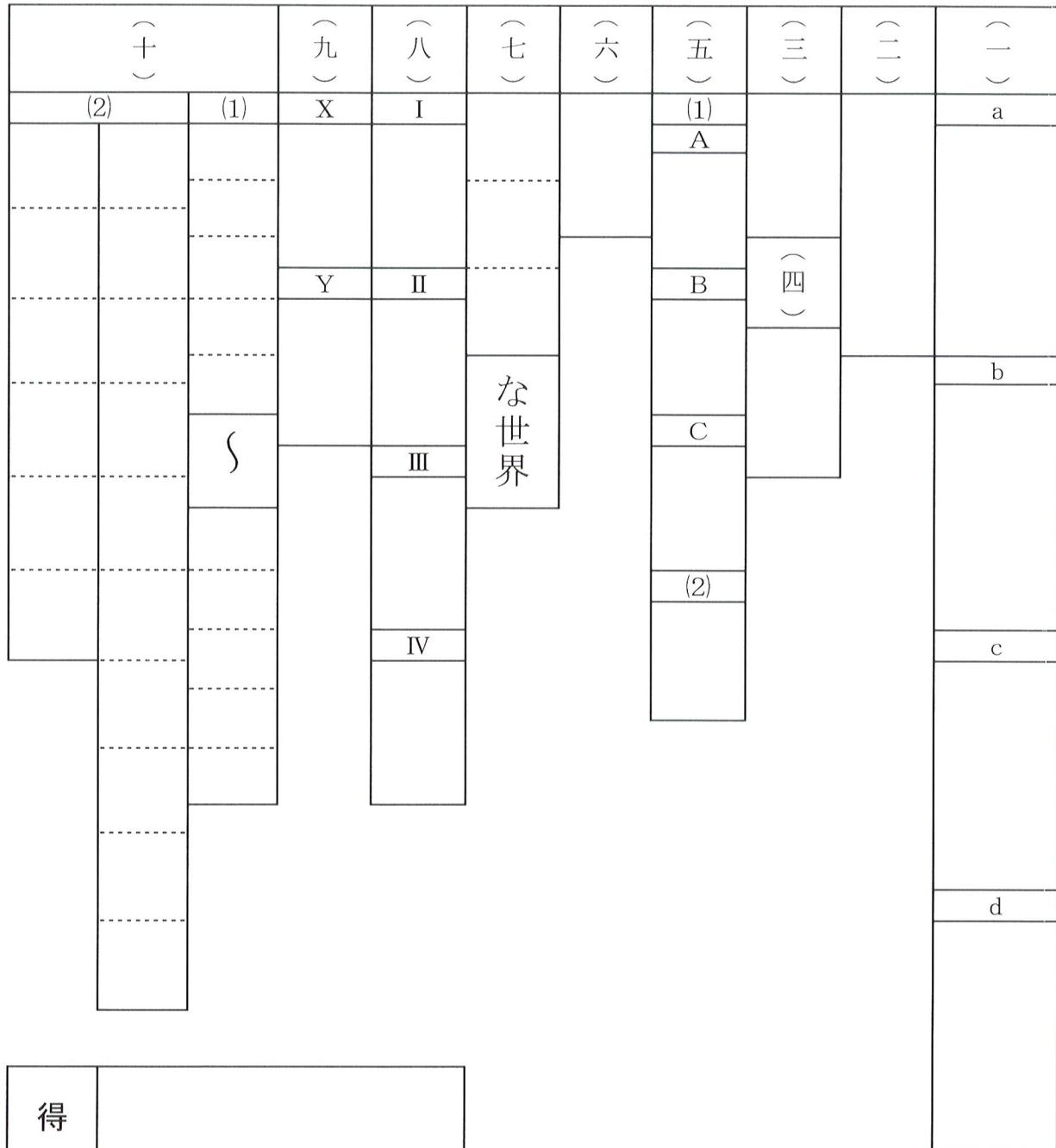
問1	
問2	
問3	
問4	

①

②

(八)	(五)	(四)	(三)	(二)	
		(1) ア	A	a	
(九)	(六)	(2) イ	B	b	
		(七)	ウ	c	
			エ	d	
			オ	e	

③



得点	
受験番号	

① (20点)
問4 問3 問2 問1 工業
3 8 7 4

② (50点)
(一) a 政策
エ A 工業 b 提唱
(二) B ウ X
(三) イ X
(四) オ X
(五) イ X
(六) ウ X
(七) エ X
(八) オ X
(九) ウ X
ア Y
イ Y
エ Y
オ X

c 補強
イ
ウ
エ
オ
X
イ
ウ
エ
オ
X
イ
ウ
エ
オ
X

d 安易
イ
ウ
エ
オ
X
イ
ウ
エ
オ
X
イ
ウ
エ
オ
X

e 風潮
イ
ウ
エ
オ
X
イ
ウ
エ
オ
X
イ
ウ
エ
オ
X

(一)
エ
(二)
ア
(三)
イ
(四)
オ
(五)
ウ
(六)
エ
(七)
ア
(八)
イ
(九)
エ
(十)
イ
ア
B
A
B
B
C
III
IV

③ (50点)
(一) a 動転
エ
(二) b 制止
ウ
(三) c 修理
オ
(四) d 観衆
ウ
(五) ウ
エ
(六) オ
エ
(七) リアル
ア
(八) リアル
イ
(九) リアル
エ
(十) リアル
イ
な
い
ん
だ
よ

(順不同)

c

d

(一) A
ア
(二) B
イ
B
ウ
(三) C
エ
C
ウ
(四) D
オ
D
エ
(五) E
ウ
E
エ
(六) F
エ
F
エ
(七) G
ア
G
エ
(八) H
イ
H
エ
(九) I
オ
I
エ
(十) J
ウ
J
エ
(1) K
エ
K
エ
(2) L
ア
L
エ
(3) M
イ
M
エ
(4) N
オ
N
エ
(5) O
ウ
O
エ
(6) P
エ
P
エ
(7) Q
ア
Q
エ
(8) R
イ
R
エ
(9) S
オ
S
エ
(10) T
ウ
T
エ
(11) U
エ
U
エ
(12) V
ア
V
エ
(13) W
イ
W
エ
(14) X
オ
X
エ
(15) Y
ウ
Y
エ
(16) Z
エ
Z
エ

(2) 私たちは人と違つていてもいいんだ
(1) うちには貧乏がないんだよ

⑥ ⑥ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ② ① ② ② ②
× 2 × 2 × 4 × 4 × 4 × 5 × 5 × 5

⑥ ⑤ ⑤ ⑤

(1) うちには貧乏がないんだよ

(2) 私たちは人と違つていてもいいんだ

⑥ ⑥ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ② ① ② ② ②
× 2 × 2 × 4 × 4 × 4 × 5 × 5 × 5